

別紙8 LEED-ND認証取得における要求水準

本事業においては、大学が別途計画する教育研究施設（LEED-NC認証取得予定）整備用地と学寮整備用地を合わせてLEED-ND（Neighborhood Development、エリア開発版）認証を取得することを予定しており、学寮施設ではLEED-ND認証で求められる必要最低限の基準をクリアするため、以下の要求水準を満たすものとする。

項目番号	項目	本事業における要求水準
NPD必1	ウォークアブルストリート	a 本施設の主たる出入口は歩道に接すること。
NPD選1	ウォークアブルストリート	a 歩道に面する建物外壁は、該当長さの80%以上を敷地境界線または歩道から7.5m以内とすること。
		b 歩道に面する建物外壁は、該当長さの50%以上を敷地境界線または歩道から5.5m以内とすること。
	地上レベルの土地利用と駐車場	c 複合用途（民間付帯施設が住宅以外）となる場合、歩道に面する建物外壁は該当長さの50%以上を歩道から300mm以内とすること。
		f 歩道に面して店舗等を計画する場合、その部分の外壁の60%以上を透明ガラスとすること。 ※地上900mm～2500mmの高さの範囲の総面積に対するガラス面積割合を求めるものとする。
		g 歩道に面する1階部分の外壁は、15m毎に開口部（窓またはドア）を設ける。
		h 歩道に面する1階部分の店舗等の窓はシャッター等を閉めず、夜間も見えるようにする。
j 本施設の北側、東側の道路境界沿いには歩道（複合用途の場合は幅員3.0m以上、住宅のみの用途で幅員1.5m以上）を設けること。		
p 車両が歩道を横断する箇所は東側の1ヶ所とし、車道の幅員は6m程度とする。		
GIB必2	最低限の建物エネルギー効率	ASHARE90.1-2007に基づいたエネルギーモデルで新築10%削減 以下の水準を満たすものとする。 ・低炭素建築物の認定基準を満たすものとし、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」における一次エネルギー消費量基準に対して10%以上の削減を図ること。 ・外部に面する開口部のガラスは原則として複層ガラスとする。 ・自然光、風などの自然エネルギーを有効に活用する。 ・空調は新冷媒を使用するシステムとする。 ・衛生機器は節水に十分配慮した器具を選択する。 ・照明器具は原則としてLEDを採用する。 ・各室の空調機は原則としてトップランナー仕様とする。
GIB必3	最低限の屋内水使用効率	新築建物でベースラインから20%削減 原則として、使用水量は以下の水準を満たすものとする。 ・トイレ洗浄水量 大4.80ℓ/回・小3.04ℓ/回以下 ・共用部トイレの蛇口0.76ℓ/分以下 ・専用部トイレの蛇口6.64ℓ/分以下 ・キッチンの蛇口6.64ℓ/分以下 ・シャワーヘッド7.60ℓ/分以下 吐水量は以下の水圧の時の数値を使用する。 共用部・専用部トイレ、キッチンの蛇口：60psi=415kPaの時 シャワーヘッド：80psi=550kPaの時
GIB必4	建設行為に伴う汚染の防止	侵食と堆積における管理計画 ・施工中の土砂流出飛散防止計画を作成すること（次頁以降参照）。
GIB選4	高効率の灌水	灌水量最大月でランドスケープ水需要をベースラインから50%以上削減 以下の水準を満たすものとする。 ・ドリップ式散水チューブ等、節水効果が高い散水方式を使用すること。 ・雨水利用を積極的に検討すること。 ・在来種等、地域の気候に適した植栽を計画すること。
GIB選8	雨水管理	雨水流出管理 透水性舗装、雨水再利用、屋上緑化等の採用により、敷地外への雨水直接放流の削減に努めること。
GIB選9	ヒートアイランド現象の抑制	屋上緑化 設備置場を除く屋上面積の50%を緑化する。ただし、設備置場等へのメンテナンススペースの確保等により、計画上設置が困難である場合はこの限りでない。

※「本事業における対応」のa、b、c・・・は、LEEDにおける認証項目と対応。

GIB必須4 施工中の土砂流出飛散防止計画(ESC計画)について

土砂流出飛散防止計画書の作成に当たっては、以下の項目を参照すること。

A ESC計画の目的：

- 1 雨又は風により、埋戻し用の保管土砂、再利用のための表土等の土砂を流失または飛散させない
- 2 河川と雨水排水管に堆積を起こさない
- 3 埃を飛散させない

B 提出資料

- 1 ESC計画書と計画図：
ESC計画の目的（A- 1、2、3）を満たす計画書と計画図
- 2 実施レポートの内容（申請書類）：a, b, cのいずれかまたはすべて
 - a 施工者の定期的な点検をレポートにまとめる
 - a. 1 工事期間中（地表が舗装又は植栽されていない期間）に均等間隔で最低3回分の点検資料
 - a. 2 点検日を記載
 - a. 3 問題点が発生した場合に講じられた改善策等
 - b 日付入りの写真
工事期間中（地表が舗装又は植栽されていない期間）に均等間隔で最低3回分の写真記録
（最低でも月1回以上点検を行う必要がある）
 - c プロジェクトチームにより記述された建設中の汚染防止対策の説明文書

C ESC計画書・計画図について

- 1 ESC計画のプロセス：
 - a 本工事で土砂流出及び飛散の原因と考えられる事柄を洗い出し、問題を防ぐための対策を文書及び図で表す
 - b 工事中に建設現場事務所に計画書や計画図のコピーを保管する
 - c 工事段階に合わせて、計画書や計画図を更新する
 - d 計画図に記載されていない工事の概要を計画書に示す
 - e 計画図では具体的に各対策の対策範囲を示す
- 2 ESC計画書の作成時に検討する項目：
 - a 敷地と周辺の地勢
 - b 排水
 - c 土壌の種類（浸透性、有機物の割合、深さ）
 - d 既存の植栽
 - e クリティカル・エリア（法面、河川などの雨水や強風による流出や飛散の発生源となる、または、影響を受けやすいエリア）
 - f 周辺地（建造物や道路など）
 - g その他の敷地の情報
 - h 降水量記録

3 ESC計画書で示すべき具体的な対策：

- a 既存樹木の保全、工事範囲の規定
既存樹木の保全、バッファゾーンの設定、立入り禁止フェンス
- b 工事の出入り口の仕様
工事現場出入り口の安定化、タイヤ洗浄、工事現場内の道及び駐車場の安定化
- c 流量制御
堆積トラップ、沈殿池
- d 土砂堆積防止対策
俵わら、ろ過砂利、ネット柵、沈殿池、化学沈殿、
- e 地盤の安定化
植栽の吹付け、浸透ブランケット、ビニールシート(ブルーシート)、粗面処理、埃対策
- f 法面の保護対策
植栽の吹付け、粗面処理、芝排水経路、法面排水パイプ、シルト流出抑制堤防
- g 排水口の保護対策
排水が最低1度はフィルターを通ったうえで排水口へ入るような仕組みとする
最低週1度の排水口の点検、および、堆積ゴミの清掃
- h 水路関連対策
排水経路に浸透ブランケット設置、水路への排水口保護
- i 汚染物質流入防止対策
コンクリート関連 (Ph) 対策、重機メンテナンス時、給油時対策
- j 地下水排水関連対策
綺麗な水は浸食及び洪水を起こさない場合、直接川に流すことができる
濁水は浄化してから雨水として排水する又は、下水として排水する
- k 各BMP (対策手法) の維持方法
一時的なBMPは、必要がなくなったら、30日以内に取り除く
- l 計画書、計画図の維持管理
※担当者の記載が必要
※プロジェクトに係る工事と関係ない項目はN. A. と表記

4 ESC計画図で示すべき具体的な内容：

- a 近隣地図
- b 敷地図
 - b.1 敷地境界
 - b.2 方位
 - b.3 既存建造物
 - b.4 土壌図
 - b.5 浸食の危険性のある範囲
 - b.6 周辺河川
 - b.7 地勢と既存排水インフラ
 - b.8 工事中および最終的な地勢、雨水排水の経路
 - b.9 掘削範囲、伐採範囲、工事範囲
 - b.10 工事中と工事後の排水放流場所
 - b.11 伐採してはいけない樹木
 - b.12 法面
 - b.13 埋め戻し土壌
 - b.14 掘削と埋め戻しの体積
- c 排水経路
 - c.1 トレンチなどの位置
 - c.2 トレンチなどの傾斜
 - c.3 地下水ポンプアップ位置と排水場所
- d 貯留施設
 - d.1 位置
- e BMP (対策手法)
 - e.1 沈殿池の位置と大きさ
 - e.2 沈殿トラップの位置と大きさ
 - e.3 沈殿池・沈殿トラップの断面詳細
 - e.4 沈殿池・沈殿トラップの排水口の安定化対策
 - e.5 流量制御装置の場所、容量、流量
 - e.6 法面の安定化対策
 - e.7 土壌フェンスの仕様と範囲
 - e.8 工事現場出入り口の位置